

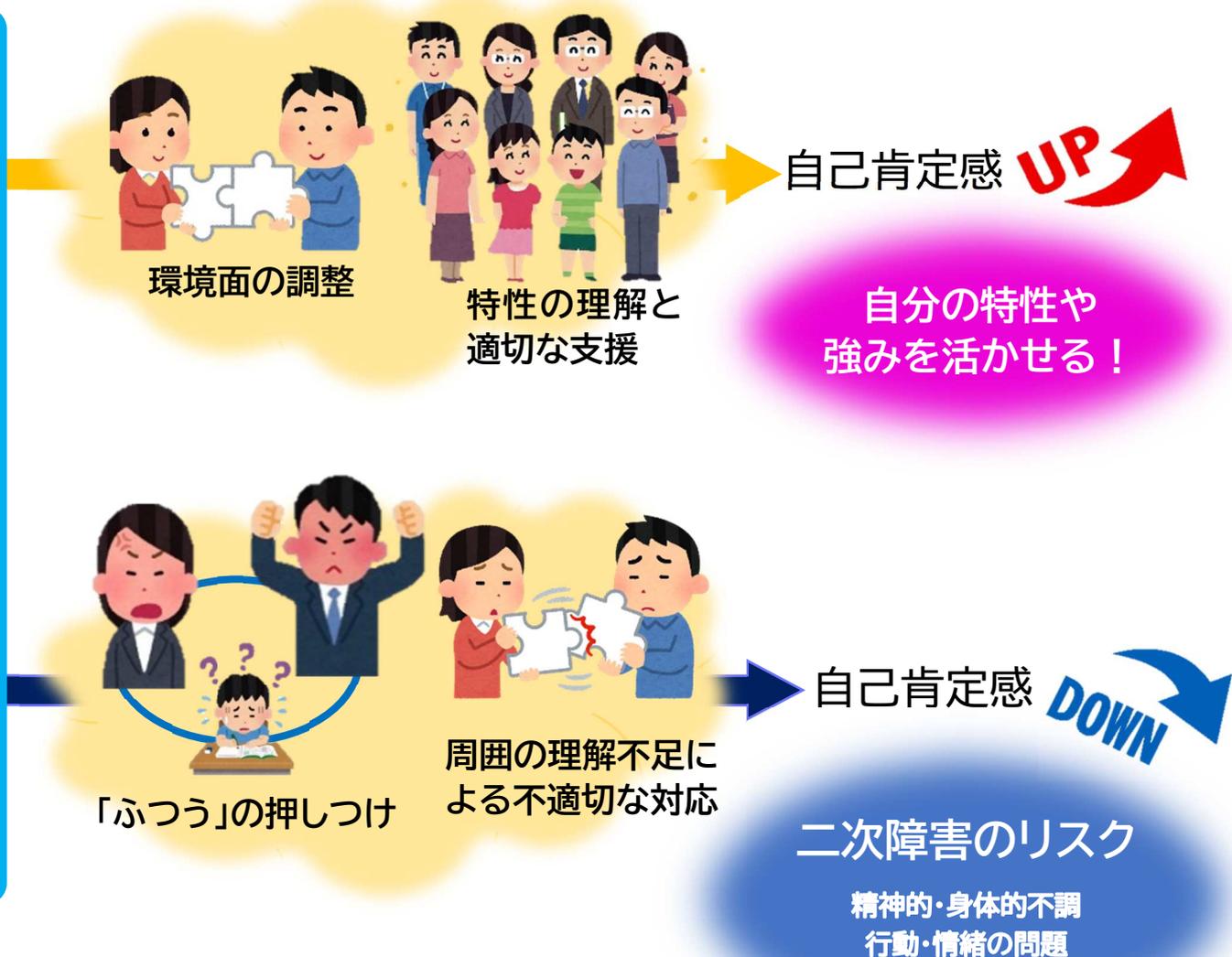
子ども時代に大切にしたいこと

～発達障がいの二次障害を予防するために～

発達障がいの子どもは環境から大きな影響を受けるため、周囲の不適切なかかわりがストレスとなり、元々の発達特性にはない様々な不適応を抱えてしまうことがあります。そのような状態を二次障害といいます。

本人や家族や支援者が特性を理解し、その子に合った支援をすることで予防できます。

一次的な発達特性
持って生まれたもの



○表記について

「障害」の表記については、「害」の字に「損なう」「災い」という意味があり、負の印象があります。

このため長野県では、共生社会の実現を目指す観点から、人や人の状態を表す場合は、特定の漢字を使用せずに「障がい」と表記することになりました。

ただし、法令の名称や用語、固有名詞、専門用語等では表記を変更しない場合もあるため、表記が混在していますがご了承ください。

理解

その子の個性を大切に！

発達障がいとは「異常」ではなく「少数派」

発達障がいは生まれつきの脳の働きの特性から生じる感じ方や考え方、行動の傾向に特徴があります。病気や疾病のように、その子を「治す」「改善する」対象とするのではなく、人間のタイプと考え「ありのままを受け入れる」ことが、より正しい理解につながります。能力が劣っている異常な子ではありません。



好みや楽しみ方の「多様性」を尊重する

「みんなと一緒に」「みんなと同じ」ことを求めるのではなく、「ひとりひとり違う」という「多様性」を認めることが大切です。しかし、発達障がいの方の好みや楽しみ方についてはまだまだ理解が深まっていないことが多く、「それは変だよ」「『ふつう』はそんなことしない」と言われてしまうことがあります。

何が好きか、どんな楽しみ方をするかは、障がいの有無に関係なく認められるべきことであり、人それぞれ違う多様な人生の目標があることは当然です。



それぞれの「違い」にこそ価値がある



社会には、いろいろな人の能力や個性があふれています。ものづくりが得意な人、たくさん人とかかわりたい人、深く探求することが好きな人…。

自分の「得意」や「好き」を活かし、社会の中で暮らしたり活躍したりすることが、個人の幸せでもあり、社会の力にもなるのです。

支援

その子の今を大切に！

大切にしたいのはその子の自己肯定感

将来の自立に必要な社会性を育むには、子どもが自信をもってのびのびと自分の能力を伸ばしていくことが大切ですが、「自己肯定感」はその原動力となります。

周囲の大人が「ありのままのあなたが大切」と伝え続けることで、子どもの自己肯定感も高まります。



精いっぱいがんばっている今を肯定しよう

周囲の大人たちは、子どもの気になる行動に目を奪われがちです。それを「問題行動」と決めつけ、良かれと思って矯正しようとするのが、かえって本人の自信を失わせてしまいます。

「この子はこの子なりに『今』を精いっぱい過ごしている」と周囲が認め、更にその様子を褒め、安心して過ごすことができる環境を作ることが大切です。



子どもの興味や能力に合った環境・活動を

子どもひとりひとりの興味関心や学習スタイルを大切に、それができる環境を整えることは、その子が自分らしく生きることに繋がります。

「〇歳だからこの活動を」「〇年生だからこの学習を」にとらわれすぎず、その子に合った内容で「もっとやってみたい」「今度はこれがいい」と思える環境や活動を提供することが大切です。



「目からウロコ」集

二次障がいを予防する支援を考えると、支援者の価値観を押し付けること等により、かえって状況をよくないものにしていたり、子どもと支援者双方が苦しくなったりしているケースがあります。

ここでは、ちょっと見方やとらえ方を変えたことで見通しがもてたり、気持ちが楽になって余裕がもてたりしたケースを紹介します。

ケース1 気持ちに寄り添う

ヤダーと騒ぎ出した子に、「そんなにいやなんだね、気持ちが伝わったよ。それも大事なあなたの気持ちだよ。」と共感して話しかけたら、穏やかさが戻ってきた。

ケース2 おおらかな対応

味覚過敏や経験不足のため食べられる食品が限られ、給食の時間が苦手だったが、先生が「無理して食べなくて良いよ」とおおらかに対応したところ、給食の時間を楽しめるようになった。

ケース3 ちょっと待ってみる

子どものパニックを慌てて制止していたが、その時の様子や環境を観察すると、その行動が、子どもが気持ちを切り替えるために必要であることが理解でき、慌てず待つことができるようになった。

ケース4 「ふつう」を押しつけない

行き渋りが見られる子どもの保護者が、みんなと同じことができることにこだわらず、子どもの「やりたいこと」や「できること」に合った内容や活動を大切にしたら、行き渋りが減った。

ケース5 「好き」を大切にする

以前は不安を訴えることが多かったが、好きな事に十分取り組む時間と環境を保障したら、自信をもって行動できることが徐々に増えてきた。

お役立ちリンク集

参考となるサイトを紹介します。
支援や対応の際にご活用ください。

○「発達障害ナビポータル」



○「もしかして、それ…二次的な障害を生んでいるかも…？」他各種リーフレット
(独立行政法人国立特別支援教育総合研究所)



○発達障がい支援のための
資源ハンドブック第4版
(長野県精神保健福祉センター)



○「適切な学びの場」ガイドライン
(長野県教育委員会ホームページ)



○「LDのあるお子さんに対する支援
～早めの気づき適切な学び～」
(長野県発達障がい者支援対策協議会)



監修：長野県発達障がい者支援対策協議会
長野県発達障がいサポート・マネージャー連絡会議
発行 2023年3月

長野県PRキャラクター
「アルクマ」
©長野県アルクマ